

事業所名		放課後の家 明和1					公表日	令和8年 2月 20日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		十分なスペースを確保し、運動できるスペース（屋外運動場や体育館）も用意している					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		職員間の連携を強化し、質の高い支援ができる体制を整えている					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		視覚支援や要求カードを設置し、個々に合わせた環境にしている					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		チェックリストを基に清潔、安全チェックを月3回実施している					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別対応できる環境を整えている					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		支援の質向上に向けて、現場の気づきを積極的に取り入れている。					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		集計結果を会議で共有し、保護者の声をもとに改善すべき点を明確にしている。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		個別面談を実施し、職員の声を丁寧に拾い上げている					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者に自社の取組が理解しやすいように運営時の写真などをふんだんに使って資料を作成している					
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		面談などを通じて職員のスキル課題を把握し、必要な研修を個別に案内している。					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		職員全員で支援プログラムの内容を検討し作成している					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		普段の様子を観察、家族からの聞き取りによるアセスメントに基づき、事業所内会議を経て適切な支援計画を作成している					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		多職種からの意見を取り入れ、計画を作成している					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		同意を得た支援計画書を支援経過記録ファイル貼り付け、毎日の支援が計画に沿って進行できる仕組みを実践している					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		自社で最適化したフォーマットを使い、個々の状況を的確に把握できる体制を整えている					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		多職種、専門職からの意見を取り入れ、具体的な支援内容を設定している					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		事業所内を3人1班で3班に分け指導員全員がレクレーション等の立案と実行を毎日当番で行う。最終承認は児発管が行う。					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節行事やこどもの興味を取り入れ、定期的に新しい活動を企画している					

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		職員全員が同じ方針で支援できるよう、情報共有を徹底している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援中も職員同士が声を掛け合い、連携を取りながら支援を進めている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		毎日話し合いの場を設け、ヒヤリハットや利用児の様子を情報共有し次への支援に繋がるようにしている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		活動内容・こどもの反応・成功体験・困りごとなどを丁寧に記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		全児童対象の振り返り会議を毎月行い、計画見直しの必要性や、支援内容を検討している	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		専任のコーディネーターが記録写真を用いて分かりやすく報告している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		専任のコーディネーターを配置し関係機関とスムーズに連携が取れるようにしている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		専任のコーディネーターが情報共有を適切に行い、移行に向けて相互理解を図っている	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		新しい場所・環境への就学の場合は現在までの支援記録を資料にし、伝達している	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		研修に参加しやすいようシフト調整を行っている	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		別事業所との合同レクリエーションを定期的に開催している	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時に短時間でも対話を行い、気になる点や変化をその日のうちに共有している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		必要に応じて個別にアドバイスをを行い、家庭での支援がスムーズになるようサポートしている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		専任のコーディネーターが見学時、契約時に丁寧な説明を行い同意を得ている	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		専任のコーディネーターを配置しこどもや家族の意向を確認している	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		保護者が納得したうえで同意書に署名してもらうようにしている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に対応し、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時や連絡帳を通して、保護者が気軽に悩みを話せる環境を整えている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		子供同士の繋がりを説明し、施設外でも良き関係が築けるように共通の話題や興味を提供している	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		こども自身の声にも耳を傾け、安心して過ごせる環境づくりに努めている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		活動内容を写真で保護者に渡し、わかりやすく説明している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		写真や活動記録の使用については、事前に保護者の同意を得ている	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		連絡帳や口頭説明に加え、必要に応じて図や写真を使ってわかりやすく伝えている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		高齢者施設との交流を定期的に行っている	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		手洗い・消毒・換気などの基本対策を徹底し、感染症流行時にはマニュアルに沿って迅速に対応している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		レクの中に訓練を取り入れて、利用児の避難行動の定着につなげている	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		利用開始前の聞き取りで、健康状態や医療情報を詳細に確認している	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		おやつ提供時には、何人かの職員で確認し、注意して提供している	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		事故防止のポイント、危険予測、ヒヤリハットの共有などをテーマに研修を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		専門用語を避け、保護者が理解しやすい言葉で説明するよう心がけている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		職員会議や日々の申し送りでも共有し、全員が状況を把握できるようにしている。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部の研修に職員が参加したり、職員ミーティングにて社内研修を行っている		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		身体拘束を行わないのが基本だが、該当する場合は保護者や関係者、事業所で相談・検討を行い決定する		